

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	等々力緑地	評価対象年度	令和7年度
事業者名	・事業者名：川崎とどろきパーク株式会社 <構成企業> 東急株式会社、富士通株式会社、丸紅株式会社、オリックス株式会社、株式会社川崎フロンターレ、グローバル・インフラ・マネジメント株式会社、大成建設株式会社、株式会社フジタ、東急建設株式会社 <協力企業> 株式会社梓設計、株式会社東急設計コンサルタント、株式会社オオバ、株式会社東急コミュニティー、東急スポーツシステム株式会社、株式会社DeNA川崎ブレイブサンダース ・代表者名：代表取締役 三木 尚 ・住所：川崎市中原区小杉町三丁目472番地	評価者	建設緑政局富士見・等々力再編整備室長 中原区役所まちづくり推進部地域振興課長 (アリーナに関すること)
指定期間	令和5年4月1日～令和35年3月31日	所管課	建設緑政局富士見・等々力再編整備室 中原区役所まちづくり推進部地域振興課

2. 事業実績

利用実績

■施設利用者等

施設名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年度	(単位:人)
アリーナ	62,817	75,430	92,877	66,007	61,777	69,303	66,298	82,469	105,245	47,831	54,487	64,365	889,849	934,256	-44,407
陸上競技場	156,715	186,740	127,632	100,355	121,963	160,838	103,951	144,543	89,093	64,540	344,729	63,103	1,481,576	1,276,258	205,327
陸上競技場	4,584	6,966	5,858	4,981	3,583	3,543	4,593	3,546					37,643	65,510	-27,867
等々力球場	26,271	65,779	22,473	66,351	13,841	73,566	33,764	16,716	5,133	1,673	4,301	15,645	266,687	311,294	-44,607
アニメスクート	10,622	10,915	12,420	13,031	12,499	13,420	13,752	11,696	12,682	8,710	7,981	7,786	134,936	138,237	-3,301
テニスコート	15,085	12,246	15,578	13,476	13,980	13,473	12,762	14,211	12,081	12,007			136,833	171,360	-34,527
運動広場	1,845	1,989	4,108	28,417	1,316	6,437	819	1,711					45,265	46,655	-1,390
歩道	1,383	1,640	1,169	995	1,041	1,573	1,198	1,833				149	10,988	14,179	-3,191
計	298,913	361,733	282,423	291,848	295,061	343,861	255,210	369,545	264,191	167,666	273,159	166,713	3,085,673	2,948,231	137,442

施設名4月5月6月7月8月9月10月11月12月1月2月3月計前年度

駐車場	15,996	18,718	19,242	19,824	16,309	20,236	17,556	17,811	13,777	11,275	11,309	14,511	201,538	203,424	-1,886
-----	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	---------	---------	--------

令和7年11月以降一部施設の施設整備工事開始

収支実績

■自主事業(自動販売機を除く)によるイベント来場者:約66.6万人(昨年度約92万人)

	R5	R6	R7	前年度比増減
収入				
サービス料	1,123,459	886,016	874,572	△11,444
利用料金収入	423,812	458,696	455,896	△2,781
自主事業収入	122,732	221,179	261,062	39,903
収入計	1,670,003	1,565,891	1,591,549	25,698
支出				
維持管理費	854,736	840,279	852,070	11,791
運営費	298,980	330,187	427,191	97,004
修繕費	33,258	34,813	36,196	1,383
水道光熱費	170,933	171,090	160,461	△10,629
減価償却	63,807	64,562	65,392	830
広告費	0	1,405	7,480	6,075
ネーミングライツ料(市納付分)	1,639	10,000	16,250	6,250
支出計	1,423,355	1,452,336	1,565,040	112,704
収支差額	246,648	113,515	26,509	△87,006

※本事業では、生じた利益の一部を市に還元(プロフィットシェアリング)することになっており、収入のうち、税引前当期利益の一部(事業契約書に基づき算出した額)が対象となるが、令和7年度分については税引前当期利益が基準額を下回ったため、市への還元はなかった。

サービス向上の取組

・緑地全体を同一の設備員、警備員、清掃員で管理するメリットを最大限活用し、施設横断的な管理を実施するとともに、安全安心を第一とした維持管理運営業務を実施した。

・ホームページによる各施設一体的な情報発信を行ったほか、SNS等による広報を実施するとともに、再編整備工事に伴う施設利用休止等の情報発信を行った。

・春に開催された全国都市緑化かわさきフェア、市長選等の3回の選挙におけるサブアリーナの開票所利用などの大規模イベント実施協力のほか、好評なイベントは定期開催するなど利用者のニーズに応じた多様な自主事業を実施し、緑地の魅力向上や賑わいづくりに寄与した。

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
利用者満足度	利用者満足度	利用者満足度調査を適切に実施しているか	10	3	6
		利用者満足度は向上しているか			
		調査結果の分析を行い、満足度向上のための具体的な取組に反映しているか			
	事業成果	事業実施による成果の測定が適切に行われているか	8	3	4.8
		当初の事業目的を達成することができたか			
	(評価の理由)				
	【利用者満足度】 ・利用者満足度調査をイベント開催時のほか、今年度は再編整備工事前の11月と着工後の2月に実施し、各施設利用者のほか、イベント来場者、緑地を散策している方なども含め約1,200名の方から回答を得た。 ・この調査で、緑地及び施設の管理状態については、それぞれ52.0%、58.8%の方から「良い」「やや良い」という評価を得た。また、緑地及び施設の総合的な満足度についても、それぞれ57.7%、62.3%の方から「高い」「やや高い」という評価を得た。それぞれ、昨年度からは20ポイント程度の下落となり、かわりに「普通」の評価が20ポイント程度増となった。10月に旧市民ミュージアムの解体工事に着手しており、11月及び2月のいずれの調査も工事に伴う園路等の封鎖、施設休止に伴う利用環境変化を踏まえた評価となったことが一因と考えられる。 ・イベントにおいても参加者にヒアリング等を行うとともに、ドッグフェスティバルなど好評なイベントについては、定期的に開催するなど、利用者の意見を反映しながら満足度向上に努めた。				
	【事業成果】 ・アンケートのほか、ミーティングやセルフモニタリングなどにより成果や課題を確認し、対応可能なものについては対応し、利用者の満足度向上につなげた。 ・多くの施設がある等々力緑地において、利用者が安全かつ快適に利用できる環境を保持し、魅力向上に資する自主事業を実施するなど、多様なニーズに応える維持管理運営業務に取り組んだ。 ・アリーナにおいて、地域のスポーツ振興を担う施設として、幼児から高齢者まであらゆる世代が、障がいの有無に関わらず運動を楽しむことができるよう、多様な教室事業等を開催しており、公の施設の管理者としての事業目的を果たしている。				

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点	
収支計画・実績	効率的・効果的な支出	計画に基づく適正な支出が行われているか	8	3	4.8	
		支出に見合う効果は得られているか				
		効率的な執行等、経費縮減の具体的な取組は為されたか				
	収入の確保	計画通りの収入が得られているか	6	3	3.6	
		収入増加のための具体的な取組が為されているか				
	適切な金銭管理・会計手続	収入と預かり金等を区別し、適切に管理を行っているか	4	3	2.4	
		事業収支に関して適正な会計処理が為されているか				
	【評価の理由】 【効率的・効果的な支出】 ・維持管理費は昨今の人件費等の増のため、前年度比で11,791千円増、852,070千円となった。 ・運営費は大規模な自主事業実施に伴い、前年度比97,004千円増の427,191千円となった。 ・水道光熱費は昨今のエネルギー価格の高騰が落ち着いたこと、また、施設整備に伴う一部施設の利用休止等により、前年度比10,629千円減の160,461千円となった。 ・上記のため、支出全体では前年度比112,704千円の増の1,565,040千円となったが、予算比で17,873千円の減となった。 【収入の確保】 ・利用料金収入については、12月以降施設整備の開始に伴い、補助競技場、釣池、運動広場の供用休止等はあったが、川崎フロンターレの試合開催に係る利用料金収入増、駐車場のサブリース契約の条件変更等に伴い、前年度比2,761千円減にとどめ、455,895千円となった。 ・自主事業収入については、音楽イベントの実施等に伴い、前年度比で39,903千円増の261,082千円となったが、想定よりも来場者数が少なかったことから予算比では83,239千円の減となった。 ・上記のため、収入全体では前年度比で25,698千円増の1,591,549千円となったが、予算比で43,401千円の減となった。 ・収支では、26,509千円の黒字となったものの、前年度比では87,006千円の減、予算比でも39,425千円の減となった。 【適切な金銭管理・会計手続】 ・金銭取扱者のもと、毎日の売上金確認をダブルチェックにて行い、入金機に投入することで、徹底した金銭管理を行っている。また、週1回入金機管理業者が収納した売上金を回収することで、セキュリティを担保している。 ・金銭管理・会計処理について、第三者による適切なチェックが行われている。					
	サービス向上及び業務改善	適切なサービスの提供	提供すべきサービスが仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	10	4	8
			サービスの利用促進への具体的な取組が為されているか			
利用者への情報提供を適時かつ十分に行っているか						
業務改善によるサービス向上		実施計画と実際のサービス提供に「ずれ」が生じている場合、原因究明に必要な取組が為されているか	8	3	4.8	
		業務改善が必要な場合に、現状分析、課題把握、改善策の検討と実施が行われているか				
		業務改善の取組によって具体的な効果があらわれたか				
利用者の意見・要望への対応		利用者ニーズの把握に努め、それを事業や管理に反映させる取組が為されているか	8	3	4.8	
		意見・要望の収集方法は適切だったか(十分な意見・要望を集めることができたか)				
		利用者からの苦情や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか				
【評価の理由】 【適切なサービスの提供】 ・魅力ある公園運営を図るため、積極的なイベント運営により市民の賑わいを創出し、協力企業とも連携を図りながら顧客満足向上に努めた。 ・ホームページだけでなく、SNSやチラシ等も活用することで効果的な広報を行った。SNSのフォロワー数はX、インスタグラム合わせて、昨年度末の計5,293人から、約1.29倍の6,816人に増となった。 ・生涯スポーツ推進事業としてスポーツ教室やスポーツデーの運営も積極的に実行し、屋外施設での体験教室も行った。 ・障がい者も利用しやすいよう、バラスポーツデーを月1回開催するほか、陸上競技場、トレーニング室、スポーツサウナ等では障がい者の個人利用は無料としている。また、各施設にはスロープやエレベーター、手すりを設置するとともに、陸上競技場では、障害者スポーツ大会を前年度の10回から13回に増やすなど障がい者利用の促進を図っている。(障がい者利用はアリーナが7,826人、陸上競技場・補助競技場が1,131人) ・アリーナについて、バスケットボールやバレーボールの公式戦が滞りなく実施されたほか、川崎市スポーツフェスタや中原スポーツまつり、ドラマ撮影なども開催されるなど、年間通じて高い稼働率を維持し、約89万人の利用となった。(令和6年度934,256人→令和7年度889,842人) また、令和7年度は当初から予定されていた市長選挙、参議院議員通常選挙のほか、衆議院議員総選挙が開催され、開票所として利用されるサブアリーナ等は短期間での既予約の団体等との利用調整を余儀なくされたが、迅速かつ適切な対応により開票所利用のため、尽力いただいた。 ・陸上競技場・補助競技場について、リーグ等の公式戦のほか、リーグワン、Xリーグ等の大規模興行誘致、自主事業として市民参加型のマラソンイベントなどを開催するとともに、陸上の個人利用のための開放などを行った。補助競技場は12月以降再編整備に伴う供用停止もあったが、約149万人の利用があった。(令和6年度1,340,808人→令和7年度1,489,118人) ・テニスコートについては常に多くの利用需要があり、新たに始めた自主事業によるテニス大会も好調で、約13.5万人の利用があり、稼働率も約98.1%と高くなっている。(令和6年度130,287人→令和7年度134,936人) ・野球場について、適切な施設利用を提供するとともに、利用が少なくなる冬場においても屋内練習場を活用したスクール事業を実施するなどし、約35.6万人の利用となった。(令和6年度311,256人→令和7年度356,487人) ・サッカー場については、今年度はサッカー大会開催予定日に荒天が重なるなど、雨天キャンセルもあったが、川崎フロンターレのアカデミー活動やサッカー大会等が実施できるよう適切なサービス提供を行い、約15.9万人の利用があった。(令和6年度171,340人→令和7年度158,837人) ・釣池について、特定の利用者が多い施設であるものの、釣竿のレンタルや川崎フロンターレ会員との連携イベント等を実施し、子供連れの利用者など新規利用者の獲得にも取り組んだ。また、施設整備に伴い12月以降供用停止となったが、利用者からの要望を受け、3月から休日の供用を再開し、約1.1万人の利用となった。(令和6年度14,179人→令和7年度10,988人) ・駐車場について、約20万台の利用があり、特にイベント開催時には多くの利用があったため、主要な興行時には誘導員を配置することで、渋滞による近隣への影響を抑えるなど、適切な対応を行った。(令和6年度203,424台→令和7年度201,532台) ・緑地全体の利用について、公園内行為許可による一般利用と指定管理者による自主事業が重ならないよう、道路公園センターとも連携しながら、円滑な管理運営を行った。 ・自主事業については、12月以降施設整備工事に伴う一部施設の供用休止や仮囲い設置に伴う開催可能場所が減ったことなどもあり、飲食の提供やイベントなど90件の実施となった。(令和6年度127件→令和7年度90件) ・かわさきスポーツパートナー等と協働したイベントとしてパブリックビューイングを実施した他、ゴールデンウィーク期間中に実施した肉祭りでは約7.4万人、ドッグフェスでは約3,100人が来場するなど、盛況なイベントを定期的に実施し、緑地の賑わいづくりに取り組んだ。一方でイベントによっては騒音や飛翔物、集客が想定を大幅に下回るなど企画立案における課題も認められた。 ・施設の利用促進のため、令和7年度から第1、2サッカー場の利用可能競技にラクロスを追加し、野球場でもラクロススクールを実施した。 ・緑地や各施設の歴史・魅力を伝承し、より愛着醸成を図る取組として、スタジアムの裏側も見学できるスタジアムツアーおよびギャラリー展示を実施した。また、ギャラリー展示には川崎に所縁のあるアーティスト「SHISHAMO」等の々々緑地での活動履歴を追加するなど、魅力向上に努めた。 【業務改善によるサービス向上】 ・多様なイベントを実施するうえで、近隣町内会へ丁寧説明を行い、周辺の理解や配慮に努めた。 ・野球の大会時等の駐車場の一部事前予約を開始し、利便性の向上を図った。 ・拾得物管理システムを導入し、施設間情報共有や問い合わせ対応を迅速化した。 【利用者の意見・要望への対応】 ・ホームページに問い合わせフォームや各施設の連絡先の掲出、アンケート調査等により利用者ニーズの把握に努め、積極的に市民の声を反映することでより魅力ある公園運営を継続的に行った。						

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
組織管理体制	適正な人員配置	必要な人員(人数・有資格者等)が必要な場所に適切に配置されているか	8	3	4.8
	連絡・連携体制	定期または随時の会議等によって所管課との連絡・連携が十分に図られているか			
	再委託管理	再委託先との連携調整が適宜・適切に行われ、業務の履行についても適切な監視・確認が為されているか			
	担当者のスキルアップ	業務知識や安全管理、法令遵守に関する研修が定期的に行われ、スタッフのスキルとして浸透しているか			
	安全・安心への取組	事件・事故、犯罪、災害から利用者を守ることができる適切な安全管理体制となっているか(人員配置、マニュアル、訓練等)	8	3	4.8
		緊急時に警察や消防など関係機関と速やかに連携が図れるよう、連絡体制を構築し、定期的に情報交換等を行っているか			
	コンプライアンス	個人情報保護、その他の法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	6	3	3.6
	職員の労働条件・労働環境	スタッフが業務を適正に実施するための、適切な労働条件や労働環境が整備されているか			
	環境負荷の軽減	環境に配慮した調達や業務実施が行われているか			
	(評価の理由)				
【適正な人員配置、連絡・連携体制、再委託管理及び担当者のスキルアップ】 ・統括管理責任者が事業全体を把握し、的確な意思決定を行うことができるよう、各業務責任者等を基本的には適切にマネジメントできているが、自主事業等において事業者と連携調整等が不足していることがあるため、より適切にマネジメントされたい。 ・業務をモニタリングする上で複層的な体制を構築し、業務責任者による1次モニタリング、本部長による2次モニタリングを行い、社内連絡会議を通して、統括管理責任者による確認・評価が行われた。 ・月2回、運営定例会を開催して所管課と情報共有を図るとともに、電話やメール等も活用しながら必要に応じて連絡・調整を行った。 ・各施設の日程調整会議やスポーツセンター館長会議に参加し、スポーツフェスタや区民祭等市イベントも事前の打ち合わせにより連携を深め運営したほか、中原スポーツまつりでは市と指定管理者の共催事業として積極的な連携を図った。 ・マルチジョブ化を図り、受付⇄トレーニング室や野球場⇄アリーナというように、無駄のないシフト調整により業務の効率化を図った。 ・各施設の支配人には指定管理者の職員を配置し、実業務については専門業者に委託するなど、サービス向上に取り組んだ。また、毎週の定例会で報連相を徹底し、確実な連携を図った。 【安全・安心への取組】 ・日頃から安全・安心な利用環境を確保するために施設・設備の点検の実施、利用者が安全に利用していただくために、施設ごとに定めたルールの掲示、IIPへの掲載、声かけを行うとともに、事故等に備え全スタッフが心肺蘇生の講習会を受講し、緊急時に備えた体制を整えた。 ・自主的な避難訓練の実施や、市と連携した浸水対策実地訓練等も積極的に行った。 ・東急電鉄による荒天予報や交通インフラ計画など、株主や協力企業の情報を活用しながら未然のリスク防止に努めた。 ・雷雨予報がある際には、雷ナウキャストを参考に屋外施設利用の中断、中止し、放送等で注意喚起するとともに、各施設内に常時避難可能とし、雷雨による人的被害のないよう適切に対応している。 ・令和7年9月のゲリラ豪雨被害を受け、緑地内各施設での対策内容と優先順位を定めた等々力緑地豪雨対策方針を策定した。また、緑地スタッフのスマートフォンや、各施設に設置したタブレットに、ゲリラ豪雨予報機能を持つアプリを導入したほか、土嚢の追加配置を行った。 ・事故等対応案件が85件(うち施設利用中等の負傷34件、熱中症等体調不良による搬送15件、泥酔者対応1件、再編整備関係9件)あったが、急病人・負傷者対応や熱中症対策のため、各施設に救急箱や担架、製氷機の設置、経口補水液の常備やデニスコートでのレンタル日傘等により、安全・安心な施設利用に取り組んだ。 ・10月以降段階的な工事着手等のため、動線の確保や周知等を適切に行い、安全安心な緑地の維持管理運営業務に努めたが、施設整備工事では9件の事故(仮囲いの一部転倒2件、物損事故4件、公園利用者の工事エリアへの誤侵入等2件、施工者の負傷1件)が発生した。 【コンプライアンス】 ・個人情報の取扱いに関し、個人情報保護規定を制定し、情報の漏洩、滅失及び毀損の防止、その他個人情報の適切な管理に努めるよう、個人情報管理責任者から業務従事者に周知している。また、会計士の定期的な監査により、透明性を確保した業務が行われている。なお、9月に配布した再編整備工事に係る通知の中で、電話番号の誤記があったことが、翌年度に発覚する事案があり、市から再発のないよう注意喚起を行った。 【職員の労働条件・労働環境及び環境負荷の軽減】 ・適切な労務管理のもと、各現場がフォローしあう体制づくりにより、イベント対応時や緊急時対応時が重なった際も、特定の職員に業務が集中しないよう取り組んだ。また、従事する職員については、ワークライフバランスに配慮し、利用者の動向に合わせたフレックス勤務や業務を横断的に実施することで、従業員満足の向上を図った。また、社内資料のペーパーレス化を図るなど、環境負荷の軽減にも努めている。					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	8	4	6.4
	管理記録の整備・保管	業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか。			
	清掃業務	施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか			
	警備業務	施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか	8	3	4.8
	外構・植栽管理	外構の植栽を適切に管理(草刈、剪定、害虫駆除等)しているか			
	備品管理	設備・備品の整備や整頓、利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか			
	(評価の理由)				
【施設・設備の保守管理】 ・維持管理計画に基づく保守点検をもれなく実施しており、異常個所の早期発見・対応により、利用者への影響を最小限度にとどめるよう対応した。 ・陸上競技場のバックスタンドコンコース床補修やアリーナのメインアリーナ4F吊物照明盤など、利便性や安全性の向上、施設寿命の長期化に資する大型修繕を適切に実施した。 ・昨年度の秋開催に続く、全国緑化かわさきフェアの春開催では、市関係部署等と連携し、緑地内施設の活用を行い、約34万人の来場に寄与した。 ・令和7年9月のゲリラ豪雨時には、土嚢や止水板設置などを実施し、浸水個所の排水対応や修繕手配等を速やかに行った。その結果、浸水被害の拡大を食い止め、翌週の陸上大会、翌々週のリーグ試合を無事開催させた。 【清掃業務】 ・維持管理計画に基づく日常・定期作業を滞りなく実施した。 ・日中清掃員が常駐することでゴミや落ち葉等を迅速に回収し、美観維持向上に貢献した。また、落葉時期における近隣住民からの陳情に対しても、即時対応することができた。 ・夏季のインコ大量発生による遊具等へのフン害に対し、1カ月以上の間毎日洗浄作業を行い、美観・衛生環境の維持に努めた。 ・昨年度のアンケート調査でのトイレ清掃の意見を踏まえ、これまで利用していた洗剤を見直すなど、清掃時の洗浄力を高める取り組みを行った。 【警備業務】 ・警備員を24時間常駐することで、夜間早朝に発生する事案についても迅速な対応を行った。深夜時間帯のバイク乗り回しや飲酒・喫煙行為については、警察とも連携し、巡回強化を依頼するなど対応を行った。 【外構・植栽管理】 ・近隣住民などからの陳情等による作業スケジュールの変更柔軟に対応しつつ、優先順位をつけて緑地全体の植栽管理を実施した。また、強風・豪雨の直後などは緑地内植栽の目視点検を実施し、折れ枝等の危険性がある場合はその除去を行った。					

4. 総合評価

評価点合計	63.6	評価ランク	C
-------	------	-------	---

※評価ランクの適用基準

評価ランク	適用基準（評価点合計）
A	総合評価の結果、特に優れていると認められる。（80点以上）
B	総合評価の結果、優れていると認められる。（70点以上80点未満）
C	総合評価の結果、適正であると認められる。（60点以上70点未満） ※標準点
D	総合評価の結果、改善が必要であると認められる。（50点以上60点未満）
E	総合評価の結果、問題があり適切な措置を講じる必要がある。（50点未満）

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

・指定管理3年次目である令和7年度は、全国緑化かわさきフェアの実施や3回の選挙におけるサブアリーナの開票所利用、10月以降段階的に再編整備工事が着工されるなか、大きな事故はなく、安全・安心な緑地の維持管理運営業務を適切に実施した。

・維持管理計画に基づく定期点検や日常点検等を適切に実施し、夏季のインコのフン害等異常個所の早期発見・対応を行うことにより利用者への影響を最小限に留めるとともに、植栽管理について剪定作業の予定をホームページで公開するなど、適切な維持管理を実施した。また、必要な修繕や備品更新を適切に実施することで安全で快適な施設の利用環境を提供し、大規模興行についても大きな事故等なく実施することができた。

・地域団体やかわさきスポーツパートナー等と連携した取組や、賑わい創出に向けた大型イベントの誘致など、多種多様な自主事業を実施することにより、緑地の魅力向上や施設の利用機会向上・有効活用に寄与した。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

・令和7年度の維持管理運営を通じて得たノウハウや課題等を適切に振り返り、今後のサービス向上に努めること。また、効果的に利用者の声を収集するため、利用者アンケートについては、工事影響を考慮し、供用している施設ごとの実施など、より適切な手法や時期・頻度を検討し、実施するとともに、寄せられた意見や要望等に対して、効果的な改善策を講ずるなど、より質の高いサービス提供に引き続き取り組むこと。

・市が推進するかわさきパラムーブメントや地域包括ケアシステムを踏まえ、誰もが利用しやすい施設として管理運営を行うとともに、日々の運動やコミュニティの場としての活用が促進されるよう取り組むこと。

・地元企業や近隣住民など地域と連携したイベントなどの取組や、市民協働による維持管理など公園の魅力づくりをさらに進めること。

・自主事業等についてはトラブル等ないよう事前調整をよく行い、多様なニーズに合わせた企画を立案するとともに、より効果的な周知期間、周知方法についても検討し、引き続き、緑地の魅力向上や施設の有効活用に取り組み、収益確保に努め、緑地への利益還元を行うこと。

・トイレの清掃状態についてはより清潔な状態となるよう引き続き努めること。

・平常時から災害への備えに取り組むとともに、風水害等に備えた実践的な訓練を実施することで、従事者の防災能力や意識の向上に引き続き取り組むこと。また、昨今の異常気象(酷暑や雷、ゲリラ豪雨等)に伴う利用者の誘導・安全確保や、多種多様なイベント開催により想定されるリスク(飲食提供に伴うアレルギー症状や飲酒トラブル等)への対応など、日頃から様々な状況を想定し、それに対応できるよう更なる体制の強化に努めること。

・令和7年度から令和8年度月上旬にかけて配布した書類において電話番号の誤記載があったことから、作成書類等の確認を徹底し、再発防止に努めること。

・令和7年度は仮囲いの一部転倒や工事エリアへの誤侵入等の事案も発生しているため、市などの関係者と連絡・調整を密に行い、工事に関連する事故のないよう、昨年度以上に安全・安心な緑地の維持管理運営業務を適切に実施すること。